

スクラップ記事

広島県

2000年(平成12年)10月16日(月曜日)

50匹以上のウサギが死んだウサギ小屋 (三原市の市立沼田東小で)



三原市立沼田東小(杉森義人校長)で飼育していたウサギが、劣悪な飼育環境のため、昨年十二月から五十四匹以上死んだ。改善を求めた保護者ら、学校側は「子供たちに、自然の厳しさを教えるため、このままがいい」と回答していたことが、十五日分かった。親の抗議で今年三月に避妊手術をし、事態はようやく収まったが、教育評論家は「教育問題より勝った奇癖。単なる動物虐待に過ぎない」と、学校側の対応を批判している。

ウサギ50匹以上死に

三原の沼田東小

「自然の厳しさを教える」と放置

同校などによると、動物愛護精神を養うと約十年前からウサギを飼育。広さ六平方メートルの小屋で雄雌二匹に育てていた。繁殖が盛んになって、一九九九年秋には三十匹以上がひしめき、ウサギが死に始めた。その際に児童は小屋裏に糞尿。一度に十四匹ほど埋めたこともあった。

児がねた母親(41)が同年十一月、雄雌別々に育てるよう校長に要請。今年一月には当時の六年女児が山本清治市長に「もう糞尿は嫌です」と手紙を送った。

学校側は「たんに避妊手術を約束したが校長が子供たちに自然の厳しさを教えるため」との返答だった。ウサギで生かす死なすを見せたい」と母親に回答。母親の抗議で三月初めに避妊手術が行われたが、生き残ったのは十四匹だった。母

避妊手術 遅ればせながら 親が抗議

親は「むい死を放置に見せる必要があったのか」と怒っている。

広島市立安佐動物公園は「ウサギはストレスがたまる子畜でを放棄することもある。雄雌別々に育てるが避妊手術をするしかない」と答える。

市教委の元広島市・学校教育課長は「結果的に配置が足りず、児童に悲しい思いをさせた」と話し、杉森校長は「多くの死を見せるのは教師ではなかった。費用の問題もあって対策が返れた」と説明している。

教育評論家の尾木直樹さんの話「ウサギの飼育は、命を守っていくことの大切さを教えるため。『自然の厳し』というが、単なる動物虐待で、死についての教育ではない。そして死なすれた教育がなされるのが、信じられない話。おかれている自問もない」

新聞記事切り抜き画像 <http://www.ddt.or.jp/~jn4bni/kure/nutahigashi.jpg>

このファックスニュースが不要の際や不適切にお届けされた際には大変お手数ですが下記までご連絡いただくと幸いです。不要の際の返信先Fax:03-3350-6440又は03-3351-7057 NPOねこだすけAWN連絡会係